

日本グループ・ダイナミックス学会会報

JGDA

ぐるだい ニュース

The Japanese Group Dynamics Association

<http://www.groupdynamics.gr.jp/>

第 59 号

(2021 年 8 月 20 日)

発行所：東洋大学 北村英哉研究室

日本グループ・ダイナミックス学会

E-mail : sec-general@groupdynamics.gr.jp

発行人：北村英哉

編集担当：藤村まこと

目次

新会長の就任挨拶	2
退任のご挨拶	3
日本グループ・ダイナミックス学会 第 67 回大会 開催の挨拶	4
日本グループ・ダイナミックス学会 第 67 回大会 開催に向けて	5
国際化推進	7
国際学会発表支援・参加費支援制度	7
AASP 年会費特別割引について	7
機関誌『実験社会心理学研究』	8
特集企画「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）とグループ・ダイナミックス」	8
掲載予定論文	8
事務局からのお知らせ	9
新運営体制のご案内	9
会員異動	10
グルダイ学会関係連絡先	11

新会長のご挨拶

会長 北村英哉（東洋大学）

このたび、日本グループ・ダイナミクス学会の会長に就任いたしました北村です。創設以来の長い伝統である小集団研究などには直接従事した経験が乏しい経歴ですけれども、実験社会心理学を行う一隅に関わらせていただいております。近年、集団間関係の問題にも関心があり、自身の領域と近かった偏見やステレオタイプなどの研究を行っています。グループ・ダイナミクスの創始者であるクルト・レヴィンは民主型・専制型、放任型リーダーシップの研究でも有名ですが、社会がいかに民主的に運営されるかは、私にとりましても長らくのテーマでした。直接に民主制や民主的リーダーシップに近づくための手立てや介入、逆にこれを阻害するさまざまな社会的・個人的要因に関心をもってきました。



また、学会は社会のなかにあるひとつの組織であり、その学術的機能を考える上で、昨年の日本学術会議における6名の任命拒否問題は、民主主義的運営にも関わる重大な問題を示したものと理解しております。西田前会長のもと、日本グループ・ダイナミクス学会もいち早く、日本学術会議が発出した要望書に賛同する人文・社会科学系学協会の共同声明にも参加したところです。引き続き、各学協会への対応の推移に着目しながら、会員の意志ともすりあわせつつ、協力して参りたいと考えております。

また、昨年来の新型コロナウイルス感染症への社会的影響は、研究・教育活動に多大な制限を与えています。大学新入生の苦難はメディアもよく取り上げることとなり、これまでとは異なった授業対応の工夫に教員たちも追われ、また、学会大会や研究会などもリモートで行われることが頻繁となり、今年予定されておりましたICP(International Congress of Psychology)、また友邦の学会となっているAASP(Asian Association of Social Psychology)の大会などの国際学会、そして帝塚山大学が主催校となっております9月11日、12日開催の本学会の第67回大会もオンライン開催となりました。

大会の機会に学術・研究情報の交換や知識のアップデート、親睦・交流の促進など、重要な対面の機会が失われているのは誠に残念です。会員の皆様の日頃のご努力やご献身をリフレッシュする機会としても学会大会は大切ですが、少しでもその機能を果たせますように、大会主催校と共にリアルさを感じられる大会を準備中です。

社会に伏在していた多くの課題が顕在化してきた近頃、罹患者や医療者への差別、自粛にまつわる力動、買い占め行動、ネットや口コミでのワクチン等をめぐるデマ、感染のリスク認知など、社会心理学者、グループ・ダイナミクスに求められる社会からの要請は大きなものとなりつつあります。こうした付託に研究者が応えられる支援としても機関誌の特集号や研究助成の企画が進行中です。研究者の方々への支援と、社会での学術的役割を意識しながら、外の社会との交流も深めつつ、社会の変動期とも言える時代での学会の方向性を検討しながら、運営の舵取りを民主的運営の知恵に倣いつつ行って参りたいと考えております。

どうぞご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

退任のご挨拶 “Beyond Academism” again!

前会長 西田公昭（立正大学）

コロナ禍が続く日々、お見舞い申し上げます。さて私、この度、2期目の任期を満了して当会の会長を退任いたしました。会員の皆様におかれましては、何かと運営にご支援ご厚情をいただき、感謝に絶えません。思い起こせば4年前、当学会は会員の減少の影響を受けたせいか、財政危機に瀕しておりました。まず赤字財政の問題はさまざまな対策を打ち出すことで、どうにかストップいたしました。しかし会員の減少問題は解決していません。



この原因には、色々と複雑な要因が関わっており、手に負えないことも多くありました。ただそれでも、できることは、なんでもやってやろうという精神で、いっそうに魅力的な学会を目指すことを目標に据えました。機関紙「実験社会心理学研究」には、Short Note という種別を設けました。若手の支援の枠を広げたり、Twitterでの広報をはじめたりもしました。また大会では、この規模の学会だからこそ意義深いものとなる懇親会も盛大に継続して大事にしました。各開催大学のおもてなしにより、美酒と美菜で大いに楽しくかつ有意義なものとなりました。いつの世も、研究者魂をお互いにインスパイヤーし、熱い思いを議論し、高い志を持って険しき道を歩みはじめた若き研究者たちの不安と希望を分かち合うには、対面コミュニケーション“with 飲みニケーション”だと思うのです。

また大会では、「コラボ・リクエスト企画」というのをはじめて、会員と外部の集団問題を抱える人々との交流の場を設けました。その背景にあったのは、学会の“オタク化”つまり社会からの遊離への危惧でありまして、我らの学問が一般社会にはあまりに知られておらず発言力がない、という思いでした。もちろん個人や幾つかの研究室がご活躍のことは存じあげておりますので、一括りにすると失礼なのですが、グループ・ダイナミックスあるいは社会心理学が明らかに役立つだろうと思う需要の場があるのに、認知されていないために供給できていない。もっと多く一般向けの本を書いたり、SNSやマスメディアで発信したり、行政機関、民間団体などに存在をアピールしたりすることが、足りてないとの思いでした。つまり“営業力”が欠けていると思って始めた企画でした。それで、会員の意識を学会の外部に目を向けてもらい、解決のアイデアを求めて困っている現場の人々との交流が促進されることを期待したのが狙いだったのです。この企画は、仕掛け不足で、今後の行方が心許ないのですが、私達の進む方向としては間違えていないと思っています。

さて、簡単な挨拶のみに留めるつもりでしたのに、つい無駄につらつらと書いてしまいました。ご容赦ください。コロナ禍がおさまり、皆さまと早くリアルにお会いできる日が来ることを願ってやみません。それまで、どうかご自愛くださいませ。

第 67 回大会準備委員会 大会委員長

水野邦夫(帝塚山大学)

昨年来のコロナ禍はいまだ収まる気配はなく、学会員並びに関係者の皆様方にはさまざまな苦難がおりであったかと思いますが、心よりお労り申し上げます。一方で、東京オリンピックでの日本人選手の方々の華々しいご活躍が伝えられるなど、明るい話題もあることを糧に希望も感じています。

さて、今年度はオンライン開催という形ではありますが、本学で仕切り直しの第 67 回グループ・ダイナミックス学会を、9 月 11 日・12 日に開催する運びとなりました。開催にあたり、さまざまな方々のご協力を得たことに厚く感謝の意を申し上げます。

今大会の開催地である奈良は、1300 年以上前に都が置かれた地であり、東大寺、興福寺、薬師寺、唐招提寺などの名刹がひしめくところでもあります。さらには、佐紀盾列古墳群など、4～5 世紀に造営された巨大前方後円墳の数々が市中にふつうに存在するなど、古代のロマンに魅力を感じている場でもございます。コロナ禍が収まったころには、ぜひとも足をお運びいただければ幸いです。

また、本学心理学部は、奇しくも今年ちょうど 10 周年を迎え、大学院心理科学研究科は来年 4 月で 10 周年となります。このような節目に本学でグループ・ダイナミックス学会を開催できることをまさに僥倖と感じております。今回の学会が皆様にとりましても、実り多きことを願っています。



ウワナベ古墳（奈良県奈良市）

第 67 回大会準備委員会 事務局長
谷口淳一(帝塚山大学)

1 年延期となった第 67 回大会はオンライン開催となりました。オンライン開催ということで発表申込数は例年の対面での大会に比べて少なくなったものの、予想よりも多くの申し込みを頂きました。準備委員会では安堵するとともに申し込みをしてくださった会員の皆様に深く感謝しております。

大会を対面形式からオンライン形式へと移行するにあたっては、できうる限りグルダイ大会の良さを残そうと考えました。グルダイ大会はなんといっても会員相互の濃密な学術研究交流を行えることにその良さがあると思います。ロングスピーチや English Session など様々な発表形式、口頭発表の後に全体討論の時間を置くことで活発な議論が展開されること、ポスター発表会場でもまさに適度な発表数であることから、落ち着いてじっくりと議論を行えることなどが挙げられます。そのようなグルダイ大会の利点を最大限に残すため、オンラインであるものの、リアルタイムでインタラクティブな研究発表を中心とすることとしました。

口頭発表は zoom を用いたリアルタイム形式で実施し、ショートスピーチ、ロングスピーチ、English Session という従来の形式も踏襲しました。それぞれ 14 件、8 件、4 件と十分な数の発表申込を頂きました。ショートスピーチ、English Session については全体討論の時間も設けています。

ワークショップも zoom を用いたリアルタイム形式で実施します。2 件の申込を頂き、1 日目、2 日目にそれぞれ 1 件ずつ実施されます。

ポスター発表についてはリアルタイム形式である「インタラクティブあり」と、オンデマンド形式である「インタラクティブなし」という 2 種類の形式で実施されます。それぞれ 16 件、19 件の申込を頂きました。「インタラクティブあり」は、1 日目の 16 時 30 分から 18 時 10 分（在籍時間は 16 時 30 分～17 時 20 分と 17 時 20 分～18 時 10 分のいずれか）に実施され、オンラインイベントスペース oVice を用います。oVice では入室した人が自らのアバターを動かし、近くにいる人と会話することができます。この機能を利用して、対面でのポスター発表に近い形で研究発表を行うことができます。oVice の利用方法については 9 月 3 日、4 日に練習会を複数回実施しますので、発表者も参加者の皆さんもぜひご参加頂き、oVice の機能をお試し下さい。また、「インタラクティブなし」では、事前に発表資料をアップロードして頂き、大会開催期間を含む指定の期間中に Web 要旨集 (ORSAM portal) のコメント欄を用いて質疑応答を行います。なお、コメント欄は口頭発表やインタラクティブありのポスター発表でも利用することができます。

コラボ・リクエストも実施します。この企画の目的は、学会（発表）を通じて、研究者とクライアントとのマッチングを行い、産学連携を中心とした共同研究へと展開していくきっかけを提供することです。企業や団体の方々から 7 件の申込を頂きました。コラボ・リクエストは 1 日目の 16 時 30 分から 18 時 10 分に、ポスター発表（インタラクティブあり）と同時に oVice で実施されます。発表して頂く企業、団体の方々はグルダイ会員との共同研究を期待して下さっておりますので、是非発表を覗いて頂きますようお願い致します。

また本大会ではコロナ禍に実施する学会大会の意義を確認する意味でも、コロナ禍に関する 3

つの特別講演、シンポジウムを準備しました。まず、大会2日目に、学会常任理事会企画としてアジア社会心理学会（AASP）会長の Hoon-Seok Choi 先生に「Dealing with Covid19: The Role of Individualism-Collectivism in People's Responses to Covid19 Pandemic (Covid19 に対処する：パンデミックに対する人々の反応における個人主義・集団主義の役割）」と題して特別講演をして頂きます。大会1日目には大会準備委員会企画シンポジウムとして「新型コロナウイルス禍のグループ・ダイナミックス研究」を開催し、昨年度に新型コロナウイルスに関連した研究に対する学会の助成事業に採択された4名の先生方にご登壇して頂きます。また、大会2日目にはもう1つの大会準備委員会企画シンポジウムとして「covid-19 は親密な関係をどう変えたか？ーパンデミック前後での複数のパネルデータから見えてくるものー」を開催します。新型コロナの感染拡大によって親密な関係にどのような変化があったのかを特に DV に焦点を当てて議論して頂きます。

そして本大会では懇親会も実施します。オンライン懇親会となりますが、オンラインの利点を活かしながら、参加して下さる方が楽しく他の参加者の方と交流できるように準備を進めております。オンライン懇親会は「インタラクティブあり」のポスター発表の後、そのまま oVice にて開催致します。ご自宅にてお好きな飲み物や食べ物をご用意頂いてご参加下さい。また、奈良の地酒を事前にオンライン購入して頂ける企画も準備しております。詳細が決まり次第、グルダイ Flash や大会 HP でご案内させて頂きます。ちなみに、oVice はポスター発表やオンライン懇親会時以外の学会開催期間中も開放しており、休憩室として利用して頂けます。口頭発表後に議論の続きをして頂いたり、共同研究者との発表打合せ、他の参加者との近況報告など、対面学会時の休憩室と同様にお使い下さい。休憩室には書籍の紹介など協賛企業による展示もありますので是非にお立ち寄り下さい。

現在、円滑な大会開催のため、準備を進めておりますが、初めてのオンライン大会の開催ということで、すべてが手探りの状態です。至らぬ点も多々あるかと思いますが、参加者の皆様にもご協力頂きながら、充実した大会になるように努力したいと思います。



東大寺（奈良県奈良市）

国際化推進

常任理事（渉外担当）

五十嵐 祐(名古屋大学)

国際学会発表支援・参加費支援制度

国際学会発表支援制度は、大学院生・若手の会員を対象に、日本国外で開催される国際学会での発表旅費の支援を毎年度行うものです。毎年7月末を応募締め切りとしています。申請締め切りの時点で発表予定の研究だけではなく、当該年度にすでに発表した研究も支援対象となります。また、他学会の支援制度との重複受給も可能です。

今年度については、新型コロナウイルスの影響で未だ海外渡航が困難である状況を鑑み、オンラインでの国際学会発表に対して参加費支援を行うことになりました。詳細については学会ホームページをご参照いただければ幸いです。来年度以降も、状況に応じて柔軟に制度を運用していきたいと考えていますので、多くのご応募をお待ちしています。

学会 HP : <http://www.groupdynamics.gr.jp/support.html>

AASP 年会費特別割引について

日本グループ・ダイナミクス学会（JGDA）の会員を対象に、アジア社会心理学会（The Asian Association of Social Psychology; AASP）の年会費が割引されます。通常であれば「\$35US/1年間」または「\$65US/2年間」ですが、JGDA 会員であれば、

「\$25US [3000 円]/1年間（2022 年度）」

「\$40US [5000 円]/2年間（2022 年度・2023 年度）」

になります。なお、雑誌（AJSP）の郵送を希望される場合は、年間 4000 円がプラスされ、

「\$60US [7000 円]/1年間（2022 年度）」

「\$110US [13000 円]/2年間（2022 年度・2023 年度）」

になります。

AASP 年会費の特別割引をご希望の方は、以下のフォームから事前に申請を行い、郵便局備付の払込取扱票に必要事項をご記入の上、2021 年 10 月 31 日（日）までに、所定の金額（日本円）をご送金ください（振込手数料はご負担ください）。なお、レートによっては、お振り込み頂いた金額から AASP に年会費を送金した後、残高が生じます。これについては、学会員へのサービス（国際学会発表支援制度や国際化支援制度（英文校閲）など）の財源としてあてさせていただきます。あらかじめご了承ください。

■ 事前申請フォーム

（グルダイの会員番号が必要です。不明な場合は事務局にお問い合わせ下さい）

<https://docs.google.com/forms/d/1YkIPAcUIW--4aWY0UuF8XoczmvjrEAbzueby09Bs5v8/>

※振込先情報は、申請後に送られるメールに記載されています。

AASP への入会はシステムの都合上随時行うことができず、期日までにご送金いただいた方を対象に、JGDA 学会事務局経由で取りまとめて行います。よろしくお願いいたします。

編集委員長 坂田 桐子(広島大学)
副編集委員長 中島健一郎(広島大学)

特集企画「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）とグループ・ダイナミックス」

COVID-19 の感染拡大が始まって既に 1 年以上が過ぎ、私たちの社会生活は一変しました。対人的な交流機会の制限や長引く自粛生活により、他者との対面的なコミュニケーション機会は減少し、代わりにオンラインでのコミュニケーションやテレワーク、教育現場での遠隔授業など、新たな働き方や学び方を求められるようになりました。また、感染を巡る差別や偏見、デマ、社会的孤立など、様々な問題も生じています。COVID-19 の感染拡大に伴うこのような状況変化は、人の社会的行動、対人関係、集団行動、集団間関係にどのような影響を及ぼし、どのような問題をもたらしているのでしょうか。そして、グループ・ダイナミックスや社会心理学はそれらに対してどのような解決策を提案できるのでしょうか。

このような問題意識により、この度、編集委員長・副委員長を企画者として「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）とグループ・ダイナミックス」というテーマの特集を組むことになりました。7 月 16 日を期限として特集論文を募集しましたところ、14 件という多くのエントリーがありました。積極的にお申込みいただき、ありがとうございました。非常に充実した特集号になることが期待されます。

特集号の発行は 2023 年 2 月の予定です。皆様、楽しみにお待ちしております。

実験社会心理学研究 2021 年度 61 巻 1 号 — 掲載予定論文

(2021 年 8 月発行予定／早期公開済み)

資料論文

■ 山本佳祐・池上知子

援助行動が自己呈示とみられるとき：観察者の有無と性別が動機推測に及ぼす影響

Short Note

■ Ryosuke YOKOI, Kazuya NAKAYACHI

Trust in autonomous cars: The role of value similarity and capacity for sympathy

コロナ禍でさまざまな制約があり、まだ不透明な部分がある中で、実験社会心理学研究への投稿や、論文の査読にご協力いただき、本当にありがとうございます。61 巻 1 号の発刊は予定より遅れてしまいますが、審査中の論文が少ないわけではありません。新規投稿も続いております。査読者の先生方のご協力のもとで、これからも編集作業に尽力していききたいと思います。実験社会心理学研究の発刊を心待ちにされているみなさまには大変申し訳ないのですが、幅広いニーズに応えるような論文をお届けできると思いますので「楽しみは先にとっておく」の心もちでご寛容ください。

事務局からのお知らせ

新運営体制のご案内

2021 年 4 月より新しい体制で本学会の運営を行っております。新体制発足時（本年 4 月）に
グルダイメールマガジン（JGDA_Flash）でご案内しておりますが、その内容を再掲しながら、
改めてご案内させていただきます。

会長 北村 英哉（東洋大学） <挨拶本誌巻頭>

事務局長 尾崎 由佳（東洋大学） <https://www.yukaoz.com/>

北村会長をサポートし、学会のスムーズな運営に努めます。人と人が対面で出会い、ふれあう機
会の減っている今だからこそ、学会の持つ「つながる」機能を最大限に活かせるような場づくり
を行っていききたいと願っております。

編集委員長 坂田 桐子（広島大学）

学会誌『実験社会心理学研究』の編集委員長を 2 年間務めることになりました。不慣れではあり
ますが、年 2 回の発刊と早期公開を含む Web 公開を確実に行えるよう、副編集委員長と共に迅
速な審査に努めて参ります。「論文審査の基本方針は、投稿論文の欠点を指摘して掲載不可とす
るのではなく、貢献可能性を見つけだし、それが十分に展開されるよう援助すること」である
という編集方針を尊重して進めたいと思います。皆様の積極的なご投稿と審査へのご協力を、ど
うぞよろしくお願い申し上げます。

副編集委員長 中島 健一郎（広島大学） <https://kennakashi.jimdofree.com/>

渉外担当常任理事から離れて二年、今度は副編集長として務めることになりました。当学会に育
てていただいた、その恩返しの気持ちを大切に、会員みなさまにとってプラスになるような運
営となるよう、坂田編集長とともにがんばりたいと思います。みなさまからの「実験社会心理学
研究」への投稿をお待ちしております。どうぞよろしくお願いいたします。

渉外担当 五十嵐 祐（名古屋大学） <https://tasukuigarashi.com/>

主に「論文の国際化支援制度」と「国際学会発表支援制度」を担当しています。コロナ禍で、海
外渡航などにさまざまな制約がある中での船出となりますが、できる限り会員みなさまの研究
活動支援に努めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

大会担当 橋本 剛（静岡大学）

年次大会と役員選挙を担当いたします。コロナ禍の影響で 2021 年度の年次大会はオンライン開
催となりますが、研究活動の活性化および円滑な大会運営のために、最善を尽くしたいと思いま
す。役員選挙へのコミットメントも含めて、皆様には何かとご参加・ご協力をお願いすること
になると思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

広報担当 藤村 まこと（福岡女学院大学）

広報担当として、会報、メールニュース、SNS、学会ウェブサイトなどを担当します。グループ・ダイナミックスに関する研究や会員の皆さまの活躍を社会に発信し、学会の魅力を伝えていきたいと思っています。広報のアイデアや皆さまがお持ちの情報があればぜひお知らせください。お待ちしております。

事務局補佐 橋本 剛明（東洋大学）<https://hshmttkki.github.io/>

尾崎事務局長の下で、円滑な学会運営に向けて各種のサポート業務を行います。大学院生時代からお世話になっている学会に、このような形で貢献できる機会を頂きました。歴代の補佐の先生方と同様、「縁の下の力持ち」の役目をしっかりと果たせるよう取り組む次第です。どうぞよろしくお願いいたします。

会員異動

（2021年4月1日～8月16日）

新入会員 ----18名

一般会員

Ayşe Ilgin Sozen 川西 健二 Park Joonha 堀田 彩

学生会員

大川 明李 角心 理枝子 梶 健太 加藤 由衣 清澤 亜希子
倉田 和佳 後藤 日奈子 佐藤 洋大 張 芸誼 Trisula Evelyn C.
陶 ゲツカン 松村 楓 山縣 芽生 隆 重

退会会員 ----70名

一般会員・学生会員

相川 充 有泉 優里 安西 豪行 石川 直弘 石田 梅男
石原 彩歌 伊藤 健彦 乾 陽亮 井上 祥治 上野 裕介
植村 友里 大崎 博史 大島 みづき 太田 伸幸 太田 浩司
大西 麻仁 岡本 浩一 小俣 克之 角野 充奈 鴨澤 あかね
川口 司寛 河田 淳 北島 茂樹 具志堅 伸隆 國政 朱里
黄 麗華 小西 弘二 コプラダ マテイ 齋藤 真由 作道 信介
渋谷 和彦 下田 俊介 白木 優馬 孫 英英 大工 泰裕
高田 雅美 高野 陽太郎 高橋 直樹 高本 真寛 鷹阪 龍太
田坂 英恵 田中 大貴 田中 祐次 谷口 弘一 檀 一平太
寺島 圭 戸口 愛泰 中村 磨奈 新井田 恵美 西村 和代
野田 理世 橋口 捷久 早川 美歩 林 慎吾 原田 純治
平田 万理子 平野 英一 藤井 厚紀 堀井 美奈 米谷 淳
前田 和寛 正高 杜夫 増田 健太郎 三木 博文 三島 美砂
湯川 隆子 横川 和章 脇本 竜太郎 渡部 幹

その他

マーケティング サービス

* 50音順で掲載

グルダイ学会関係連絡先

本学会では、事務支局を中西印刷株式会社に開設しております。入退会、住所・所属等の変更、会費納入、機関誌等の未着・メールマガジンなどの配信先の登録・変更・停止等の連絡先として、事務支局である中西印刷株式会社までご連絡ください。

また、論文投稿先・審査書類送付先も中西印刷株式会社となっております。詳細は下記をご覧ください。各種お問い合わせの具体的な連絡先は以下の通りです。

事務支局【入退会、住所・所属等変更、その他お問い合わせ先】

日本グループ・ダイナミックス学会 事務支局

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入る

中西印刷 (株) 学会フォーラム内

TEL : 075-415-3661

FAX : 075-415-3662

E-mail : jgda@nacos.com

学会運営・対外業務関連

日本グループ・ダイナミックス学会本部事務局

〒112-8606 東京都文京区白山 5-28-20

東洋大学社会学部 尾崎由佳 研究室

TEL : 03-3945-4479

E-mail : sec-general@groupdynamics.gr.jp

投稿論文・学会誌編集関連【論文投稿先・審査書類送付先】

日本グループ・ダイナミックス学会 編集事務局

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入る

中西印刷 (株) 営業部編集校正課内

TEL : 075-441-3155

FAX : 075-417-2050

E-mail : jjesp-hen@groupdynamics.gr.jp

広報関連【ぐるだいニュースの編集・記事の投稿、メールマガジンへのニュース記事投稿、 新刊案内や研究会案内等のニュース記事、書評、公募情報など】

〒810-0036 福岡市南区日佐 3-42-1

福岡女学院大学 藤村まこと 研究室 (広報担当 常任理事)

E-mail : office@groupdynamics.gr.jp